



山ちゃんの
映画観ておぼ記

映画大好きの山ちゃんが、毎回、自分の言葉で執筆します。

いのちの停車場



監督：成島 出
出演：吉永小百合
松坂 桃李
広瀬 すず
西田 敏行
2021年 東映

今や日本のお母さんとも言われる吉永小百合が、映画出演122本目にして初の医師役に挑戦した作品。

現役医師による傑作医療小説を映画化。

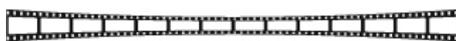
原作は現役医師・南杏子の同名小説で、医師だからこそ描写できる医療現場の臨場感、安楽死といったテーマに深く切り込み、2020年5月発売と同時に大きな反響を呼んだ話題作。

誰もが予想だにできなかった未知のコロナウイルスに、世界中が翻弄されている昨今、「生と死」「いのちのしまい方」等を問いかけるものとなっている。

白石咲和子(吉永小百合)は、東京の救急救命センターで働くが、後輩の起こした事件の責任を取って退職し、地元・石川に

帰郷。

「まぼろば診療所」で在宅医として再スタートするのだが…。



くまさんの
コンサル日誌



似顔絵作家の小西みどりさんに描いていただきました。

GDP、年3.9%減

内閣府が8日に発表した2021年1～3月期の国内総生産＝GDP成長率(季節調整済)は、物価変動の影響を除いた前年同期比で実質1.0%の減、この期マイナス成長が1年間続いた場合の年率換算では3.9%減となった。

2020年度のGDPは、新型コロナウイルス感染の拡大の中で、前年度比4.6%減と戦後最悪の落ち込み。これは、内需の柱である個人消費が、新型コロナウイルス感染症拡大を受けた2度目の緊急事態宣言の発出によって、外出自粛や営業時間の短縮等によって飲食業などのサービス消費が落ち込んでいることが大きく影響している。

さらに、次期の4～6月期も、感染力の強い変異ウイルスの拡がり度で3度目の緊急事態宣言が出され、2期連続のマイナス成長との予測もある。

こうした事態の中で、景気を回復させるために今やるべきことは、医者^の科学的知見に基づいて、オリ・パラの中止を含めた見直しなど、早期に新型コロナウイルス感染症を抑え込むことである。

また、長期にわたる営業自粛を強いられている居酒屋への補償はもちろん、経営の危機に瀕している中小企業への支援を強化すること。営業補償が遅れていることなどはもつてのほかだ。



編集後記

ワクチン接種済み

新型コロナウイルスのワクチン接種が終わった。

これまでインフルエンザの予防注射もしたことがなかったが、今回は、高齢者枠の接種クーポン券が送られてきた。すぐ、近所のかかりつけ医院に予約。1回目は5月17日、2回目は6月7日と無事に終わった。

副反応は、1回目は、ちょっと軽い筋肉痛という程度であった。

2回目は、翌日に、倦怠感と37度を超える発熱で、1日中動くのがおっくうで、横になったりしたが、その後、3日目には、すっかり改善した。

ワクチンの接種で少しは安心だが、“新型コロナ”はまだまだ終息していない。

